

令和5年度

# 研修集録

《第31号》



秋田県立十和田高等学校

## 目 次

### 巻 頭 言

校 長 深 井 裕 之

### 1 校 外 研 修

実践的指導力習得研修講座（2年目）	田 畠 智香子 … 1
実践的指導力習得研修講座（8年目）	佐々木 大 輔 … 3
高等学校新任生徒指導主事研修講座	中 嶋 豊 … 5
高等学校新任道徳教育推進教師研修講座	能 島 直 美 … 7
高等学校講師等研修講座A	岡 本 愛 那 … 9
生徒が主体的・対話的に学ぶ高等学校地歴・公民科の授業づくり	
	岩 澤 利 哉 … 11
不登校や集団不適応の悩みを抱えた児童生徒の支援	藤 島 知 歩 … 16
教育相談に活かすカウンセリングの技法	土 門 祐 子 … 20

### 2 ふ る さ と 教 育

国語科	藤 島 知 歩 … 23
地歴公民科	岩 澤 利 哉 … 25
数学科	奥 山 和 貴 … 26
	佐々木 大 輔 … 26
理科	櫻 庭 洋 … 27
保健体育科	中 嶋 豊 … 29
芸術科	田 畠 智香子 … 30
英語科	土 門 祐 子 … 32
家庭科	能 島 直 美 … 33
商業科	長 崎 純 一 … 34

### 編 集 後 記

## 「実践的指導力向上研修講座（高等学校2年目）」

教諭 田 島 智香子

### 【研修の目標】

学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付ける。

【会 場】 秋田県総合教育センター

【期 日】 I期 令和5年5月18日（木） 10:00～16:15  
II期 令和5年8月23日（水） 10:00～16:15

### 【内 容】

#### 〈I 期〉

○保護者対応と連携（講義・演習） 総合教育センター 指導主事 高橋 真里奈

○学校組織の一員として ―学校教育目標とホームルーム経営―（講義・演習）  
総合教育センター 指導主事 木村 ふさ子

○学校教育目標に基づいた学習指導①（講義・演習）  
総合教育センター 指導主事 小森 哉子

#### 〈II 期〉

○学校教育目標に基づいた学習指導②（演習・協議）  
総合教育センター指導主事 細谷 林子、八柳 英子、小森 哉子  
小坂高校教諭 坂本 真道、能代松陽高校教諭 松村 美峰

### 【感 想】

#### 〈保護者対応と連携〉

信頼関係の築き方や、苦情や要求への対応など、効果的な方法とそうではない方法とを整理することができた。何事も生じていないときに、よい関係を結んでおくことが大切で、そのためにはこまめな情報提供が効果的であることを再確認した。情報提供が不十分だと、保護者は不安になる。それが不満に変わり、最終的に不信へとつながり、難しい関係になってしまう。些細なことでも、生徒のがんばりや活躍を伝えるよう努めたい。また、保護者の「ゆとりのなさ」を理解することの重要性も感じた。特に、ひとり親家庭や発達障害の子どもを抱える家庭では負担が大きく、生じている問題が非常に重い場合も多い。生徒同様、保護者の多様性も意識して、対応するように心がけたい。

#### 〈学校教育目標に基づいた学習指導〉

今年度の教科研修は、学校教育目標の実現を目指した授業づくりという視点で行われた。校訓が創立時から不易なものであるのに対し、学校教育目標は、各校や地域の特色、課題に応じて柔軟に見直され、運用されるものである。そう考えると、学校教育目標に沿った

授業が、生徒にとっていちばん必要な学びであることは至極当然である。しかし、授業を構成する際に、学校教育目標の達成を強く意識していたかという点、私の場合は「否」である。題材や授業の目標設定の際に考えることはあっても、日々の授業の学習活動が学校教育目標のどこに関連しているのかは考えたことがなかった。意識して、意図的に活動を設定することが大切だとわかった。教科の目標（学習指導要領）をベースに授業をつくるという方向性には変わりはないが、研修を通して新たな視点をもつことができたので、生徒にとってより効果的な学習になるように活用していきたい。

「実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）」

教 諭 佐々木 大 輔

【講座のねらい】

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

【会 場】 秋田県総合教育センター

【期日・日程】

I 期：令和5年6月23日（金）

10：00～10：15 〈開会行事・オリエンテーション〉

挨拶

秋田県総合教育センター 副主幹 田 中 紀 和

10：15～11：55 〈講義・演習〉

不登校の未然防止と対応

秋田県総合教育センター 指導主事 高 橋 真理奈

12：55～13：05 〈説明〉

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

～社会教育主事の職務と役割～

県教育庁生涯学習課 主任社会教育主事 佐々木 泰 生

13：10～14：10 〈講義・演習〉

学校組織の一員としてー自己理解に基づく目標設定ー

秋田県総合教育センター 指導主事 木 村 ふさ子

14：20～16：05 〈講義・演習〉

カリキュラム・マネジメント

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小松田 哲也

16：05～16：15 〈研修の振り返り〉

II 期：令和5年8月8日（火）

10：00～10：15 〈オリエンテーション〉

10：15～12：10 〈協議・演習〉

カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善①

13：10～15：20 〈協議・演習〉

カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善②

15：25～16：05 〈講義・演習〉

カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善③

16：05～16：15 〈研修の振り返り〉

## 【講座の感想等】

### 〈不登校の未然防止と対応〉

生徒指導の2軸3類4層の構造に分けて考えることがいままでなかったため良い機会となった。不登校対応の重層的支援構造を知ることによって、すべての生徒を対象に段階的な指導ができることがわかった。また、これまで何気なく実施していた様々な教育活動が、生徒の居場所づくりや絆づくりに一役買っていたことを再確認する機会となった。授業と部活動以外の様々な場所が生徒の居場所となり得るということを認識し、一人一人の生徒を多面的に捉えることの重要性を意識しながら業務に励みたいと感じた。

### 〈学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—〉

この講義から、自分自身のキャリアアップに関して、より主体的に目標設定と振り返りを通して自己研鑽に努めるべきだと感じた。その手段の1つとして「あきたキャリアアップシート」を活用して、より客観的に自己分析し、年度ごとの研修を計画的に進めるように心がけていきたい。現在、各勤務校で行われている人事評価シートの作成に関連した管理職との一連の面談等の内容とリンクさせることで、1年間の取組により一貫性を持たせた研修計画を組むことができると考えられる。

### 〈カリキュラム・マネジメント〉

カリキュラム・マネジメントの3つの側面として、教科横断的な視点で教育内容を組織的に配列していくこと、子どもや地域の現状に合わせて教育課程を改善し続けること、教育内容と人的・物的資源等を効果的に組み合わせることを確認した。これらを回していくことで、学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことができる。また、実践にあたっては小さなPDCAから始めること、Cから回し始めることを意識することが大切である。1年間で1サイクル回すことを目指すと失敗することが多く、短期間で小さなサイクルを回すことを心がけるべきであることを学んだ。

### 〈カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善〉

Ⅱ期における授業研修会では、他教科の先生方と協議できたことが大変有意義であった。各授業とも学校教育目標をもとに考えられたカリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善を提示していたが、協議の視点がかぶることが多かった。これは目指す生徒像が大きく異なるからだと思われる。私自身はキャリア教育の一環として授業改善を試みたが、自身の教科だけでなく、他教科とも連携して授業計画を組むことが求められると実感した。これは、学校全体で組織的に授業改善に取り組む上で重要な視点であると考えられる。本校で行っている授業を見合う会や公開研究授業等の際に、教科内での意見交換だけではなく他教科同士の意見交換の場も重要視していきたい。今回の研修を通して、キャリア・マネジメントとは学校全体で取り組む必要があるものだと強く実感できた。

## 「高等学校新任生徒指導主事研修講座」

教 諭 中 嶋 豊

【研修の目標】 生徒指導主事として必要な基本的事項と、各学校の生徒指導の状態に応じた具体的な対応の在り方について理解を深める。

【会 場】 秋田県総合教育センター

【期 日】 I期 令和5年5月12日（金）  
II期 令和5年9月25日（月）

### 【研修内容】

#### 〈I 期〉

- 生徒指導主事の役割（講義） 副主幹 田中 紀和
- チームで取り組む特別支援教育（講義・演習） 指導主事 進藤 拓歩
- 事例を通じた生徒理解と対応（講義・演習） 指導主事 高橋 真理奈

#### 〈II 期〉

- いじめなどの問題行動の理解と校内研修の進め方（講義・演習）  
指導主事 高橋 真理奈
- 災害や事件・事故発生時における心のケア（講義・演習）  
東北医科薬科大学 病院准教授 福地 成

### 【受講内容】

新任者の研修ということで年2回に分けて研修講座を受講した。I期の講座では、生徒指導主事の役割、生徒指導提要にある生徒指導の定義や生徒指導の目的について教示いただいた。生徒指導は「～させる」ではなく、生徒の成長や発達する過程を「支える」という視点で考え、指導や援助を行うことが必要であり、生徒一人一人が自己指導能力を身に付けられるよう支援する必要がある。生徒指導主事は各学年部や様々な分掌との連携、管理職への報告・連絡・相談の徹底、保護者、地域との連携など多岐にわたって幅広い対応と視点が求められるため、学校全体や各学年の状況を適切に把握することが重要である。想定外は起こるものとして考え、常日頃から危機管理意識を高めることが大切であると感じた。II期の講座では、岩手県の中学2年生の児童が自殺したケースを事例に、いじめなどの問題行動や対応について教示いただいた。いじめの定義について、認識や理解を深めることや未然防止教育の取組について具体的な対応の手順や留意点を実践的に学ぶことができた。いじめや不登校、問題行動など、普段から生徒の兆候や変化を見逃さないことが大切であり、予防的な生徒指導や課題未然防止教育の観点から生徒理解や支援体制の構築していくことの大切さを教えていただき、大変参考になる講義・講話であった。

## 【感想・その他】

この2日間の研修を終えて、様々なことを学ぶことができた研修であった。生徒指導主事となり、日頃から全体に目を配りながらアンテナを高く張って生徒を観察しなければいけないことを痛感している。刻々と変化する状況の中で、生徒の学校生活の変化や家庭での様子など些細な情報であっても、管理職への報告・連絡・相談や各学年部との情報交換・情報共有など、日頃から共通理解を図る習慣や雰囲気を作ることが大切であると感じている。そのことが結果的に様々な課題が出てきたときに迅速且つ組織的に対応できるのではないかと考え、生徒指導主事の役割の重要性を強く感じている。生徒自身がどのようにしたら自己指導能力を高められるかを試行錯誤しつつ、問題行動等の未然防止に努めることやトラブルが発生したときの適切な事後指導や対応など、危機管理の「さしすせそ」を常に意識して今後も指導に当たっていきたい。

来年度からは鹿角高校として新たなスタートを切るため、1・2年生が統合に向けて不安なく充実した学校生活を送ることができるよう支援しながら、自己の役割が果たせるよう取り組んでいきたい。

## 「高等学校新任道德教育推進教師研修講座」

教諭 能島直美

### 【講座の目標】

高等学校における道德教育について理解を深めるとともに、各校における道德教育の実践的な推進力を身に付ける。

【会場】 秋田県総合教育センター

【期 日】 令和5年7月4日（火）

【日 程】

9:30～10:00	受付
10:00～10:15	〈開講行事・オリエンテーション〉
10:15～11:00	〈実践発表・協議〉 道德教育推進のための取組 横手清陵学院高等学校 教諭 沼倉 健
11:10～12:00	〈講義・演習〉 道德教育の今日的な課題と推進のための取組 秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子
13:00～14:30	〈公開講演〉 道德教育推進上の課題と道德教育推進教師の役割 十文字学園女子大学 教授 浅見 哲也
14:45～16:05	〈協議・発表〉 道德教育推進に向けた課題と改善策の具体化 秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子

【受講者】 高等学校の道德教育推進教師20名

### 【講座内容の概要等】

〈実践発表・協議〉 道德教育推進のための取組

・実践発表

勤務校について、横手清陵学院高校の道德教育の考え方「形にこだわりすぎずやってみよう!」「中学校の授業の活用」

・具体的実践例

授業テーマ「生きること」「命」、基本的ねらい「生きる力の育成」

〈講義・演習〉 道德教育の今日的な課題と推進のための取組

・道德教育の背景と概要

深刻ないじめの本質的な問題解決に向けて、与えられた正解のない社会状況、「考え議論する」道德の授業とは

- ・高等学校における道徳教育
  - 高等学校道徳教育の目標、高校生の発達段階、「人間としての在り方生き方」を考える、高等学校における道徳教育、高等学校の道徳教育の指導体制、「道徳教育推進教師」の役割・道徳教育の充実に向けて、高校における道徳教育の現状と課題、全体計画作成上の創意工夫と留意点
- ・演習 持参した「全体計画」の交換、比較、全体計画の改善にあたって
- 〈公開講演〉道徳教育の今日的な課題と道徳教育推進教師の役割
  - ・確かな道徳教育の推進
    - 道徳教育の推進者になっての変化、自校の道徳教育の課題、道徳教育を推進する教師の役割、全教育活動を通じて行う道徳教育の推進
  - ・全教育活動を通じて行う道徳教育
    - 道徳教育の目標、道徳的実践の指導、何をやっても道徳教育、何から手をつければよいかわかりにくいのも道徳教育、道徳教育の推進を図るために、道徳教育の全体計画、年間指導計画
  - ・要となる道徳科
    - 道徳教育と道徳科の関係、道徳教育と道徳科の関連を図るために、道徳科の目標・道徳科の指導と評価、道徳科の授業構想、道徳教育に関わる評価、道徳科の評価の基本的態度、道徳科の評価、道徳科における評価の意義、これから特に配慮すべきこと
  - ・令和の日本型学校教育
    - 学習指導要領の着実な実施、ICTが学校教育を支える基盤的なツール、今後の道徳科におけるICT端末活用の課題、道徳科の授業は、未来への投資
- 〈協議・発表〉道徳教育推進に向けた課題と改善策の具現化
  - ・全体計画を基に各校（学年）の取組と課題を共有、グループ協議

## 【感想】

今回の研修で最も印象に残ったのは、道徳教育推進のための取組として沼倉教諭から紹介していただいた実践である。準備等が丁寧に行われているため、生徒の心に響く授業ができていることがよく分かった。気負わず、学年部など協力し合ってみることが大切なのだと感じた。また、公開講演の中で「何をやっても道徳教育、何から手をつければ良いかわかりにくいのも道徳教育」という言葉があり、印象的であった。学ばせていただいたことを活かしてできることから行っていきたい。

## 「高等学校講師等研修講座A」

臨時講師 岡本 愛那

### 【研修の目標】

教員としての心構えを身に付け、県内の公立学校に勤務する講師として必要な資質能力の向上を図る。

【会 場】 秋田県総合教育センター

【期 日】 令和5年4月27日(木)

【日 程】 10:00～〈オリエンテーション〉日程説明等  
10:15～〈講義〉教育公務員の服務  
秋田県教育長高校教育課 管理主事 柏谷 浩樹  
12:45～〈講義・演習〉学校組織の一員として一組織人の基本一  
秋田県総合教育センター 指導主事 森川 剛  
14:00～〈講義・演習〉「あきたのそこちから」を活用した授業づくり  
秋田県総合教育センター 指導主事 田口 峰子  
15:10～〈講義・演習〉人間関係づくりについて  
秋田県総合教育センター 指導主事 小野寺 祐

### 【受講内容と感想等】

#### 〈教育公務員の服務〉

教育公務員の服務や義務などを中心に、法を基にした教育公務員の服務についての講義であった。また、教育公務員の不祥事等をどのように防止するか、具体的な事例をテーマにしてディスカッションに取り組んだ。改めて、教育公務員として働くことの自覚と責任を常に重んじ、生徒や保護者、同僚、地域の方々などの多くの人からの信頼を得続けることができるように働いていきたいと強く感じた。

#### 〈学校組織の一員として一組織人の基本一〉

「QCD」と「PDCA」の意義や活用方法について確認した上で、実際の授業づくりや事務作業などのあらゆる仕事においてどのように組織的に活用するのか、といった講義であった。また、「学校」という組織で働くにあたってのコミュニケーションの取り方などについても学ぶことができた。学校ではあらゆる業務に対して組織として取り組む必要がある。より円滑に組織として「学校」を機能させるために、日頃から情報を共有しあうことが重要であり、学校内の些細な出来事や変化、疑問などについても周囲の同僚と共有したり、確認したりすることを行っていきたい。また、教科の指導や行事の運営など、

様々な業務に対してPDCAサイクルを意識して取り入れることで、授業の改善や業務の生産性向上を目指していきたい。

#### 〈「あきたのそちから」を活用した授業づくり〉

「あきたのそちから」を基に授業力向上を目的として、授業中の発問やノート指導、指示の出し方、表情など多様な視点から授業づくりを見直す講義であった。生徒の、学習に対する主体性をどのように引き出し、確実な学力向上をどのようにして実現していくのか、実際に指導の例を見ながら考えることができた。生徒は授業中、黒板だけではなく、教師の些細な表情の変化や声のトーンなど、細かいところまで見ている。そのため、生徒を学習に引きつけるための教員の仕掛けや発問、話し方など、自分が実践できる部分から、授業を改善していきたい。

#### 〈人間関係づくりについて〉

学校で働くと、教職員や生徒、保護者、地域の方々などの多くの人と関わる場面がある。教員として関わる様々な人と信頼関係を築くための非言語コミュニケーションの重要性やアイスブレイクの方法などについて学ぶ講義であった。特に、非言語コミュニケーションについての講義が印象に残っている。非言語コミュニケーションとは、話すときの目線やポジション、立ち方、座り方などの言語以外の要素である。コミュニケーションを取る上で話の内容はもちろん重要ではあるが、相手にとっての自分の印象には、非言語的な要素が大きい影響を与えるため、どのように伝えるのかということも重視していきたい。今後、様々な人と共感的な人間関係を築くためにも、コミュニケーションの作法として活用していきたい。

## 「生徒が主体的・対話的に学ぶ高等学校地歴・公民科の授業づくり」

教諭 岩澤利哉

### 【研修の目標】

地歴・公民科教育の在り方について認識を深めるとともに、主体的・対話的な学びを実現するための指導方法の研修を通して、実践的な指導力を高める。

【会 場】 秋田県総合教育センター

【期 日】 令和5年8月7日（月）

【日 程】 10:00～10:10 〈オリエンテーション〉

10:10～11:45 〈講義・演習〉

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの実際

秋田県総合教育センター 指導主事 小野寺 仁志

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子

12:50～16:05 〈講義・演習〉

中・高の連携を意識した授業づくりの実際

秋田県総合教育センター 指導主事 小野寺 仁志

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子

16:05～16:15 〈研修の振り返り〉

### 【講座の感想等】

〈主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの実際〉

「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

「対話的な学び」の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

「深い学び」の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

上記の「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが必要であると学んだ。

「個別最適な学び」は学習内容の確実な定着を目指して「指導の個別化」を図り、学習を広め、深めることを目指して「学習の個性化」を進めることであり、普段の授業では、既習の学習内容を確認する場面や補充的学習や発展的な学習に取り組む場面などで取り入れることができる。

「協働的な学び」は「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないように、児童生徒同士で或いは地域の方々はじめ多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育てる学びである。

この「個別最適な学び」と「協働的な学び」を相互に生かし還元して一体的な充実を図ることで「主体的・対話的で深い学び」が実現・充実し、求める資質・能力の確実な育成につながるということだった。

私が印象的だったのは、「あなたの授業に子供が選択するチャンスはあるか」ということばである。子供が意思決定する場面があるかが主体的・対話的で深い学びのある授業につながってくる。小野寺指導主事は学習課題を子供たちと一緒に考えたり、単元全体の学習課題も子供たち自身で考えさせたりしたそうである。私も授業の中で生徒が意思決定する場面を取り入れようと思った。

平成30年に告示された学習指導要領の改訂で示された新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力は、①学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性等**の涵養、②生きて働く**知識・技能**の習得、③未知の状況に対応できる**思考力・判断力・表現力等**の育成とされる。それらを養い「**何ができるようになるか**」が柱だと学んだ。生徒に何を身につけさせたいか、どういう生徒を育てたいのかが授業をデザインするスタートになる。習得・活用・探究という学びの過程の中で八柳指導主事は、習得は知識等を教える、活用・探究は、発問によって考えさせる段階というふうに捉えているとおっしゃっていた。問いの設定が大事で発問の構造化が事実認識から関係認識、価値認識、意思決定へと深い学びにつながる。また、様々な学習法をご紹介いただいた。例えば、ジグソー法は、異なる考えを組み合わせ、思考を深めていく協働的な学習法の一つである。この学習法はものごとを多面的・多角的に見るようになり、言語活動能力（説明する力）をつけることができる。私も授業で取り入れてみたいと思い、2学期に公共の授業で実践してみた。

# ジグソー法とは・・・異なる考えを組み合わせ、思考を深めていく協調的な学習法の一つ

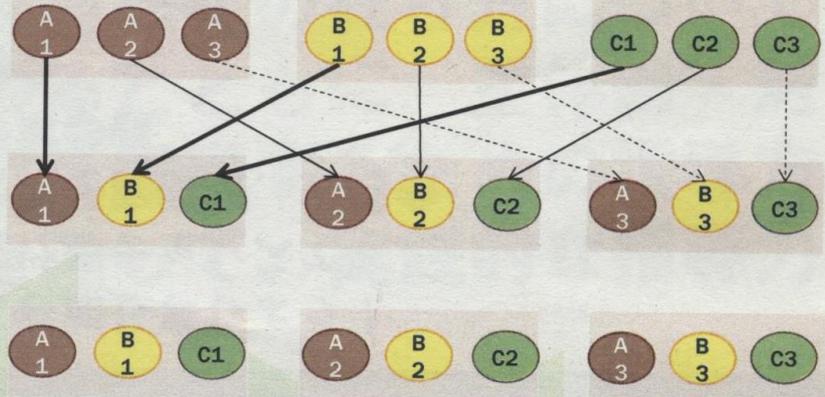
## 《ジグソー法の流れ》

①エキスパート活動  
・配布された資料を理解し、説明できるようにする

②ジグソー活動  
・エキスパート活動で得た知識をもとに説明し合い、課題を追求する

③クロストーク活動  
・各ジグソーグループで出た意見を全体で話し合い、理解を深め、知識の統合を行う

〈Aのエキスパートグループ〉→Aの資料について話し合い  
〈Bのエキスパートグループ〉→Bの資料について話し合い  
〈Cのエキスパートグループ〉→Cの資料について話し合い



八柳指導主事のジグソー法のスライド資料

## 〈中・高の連携を意識した授業づくりの実際〉

小・中では、「社会的な見方・考え方」に基づく問いから主体的・対話的学びが実践されており、子供たちも体験を積んでいる。高校においても教員が中学校の学習との連携を意識することで、より効果的な授業が実現できる。小野寺先生の実践では単元を貫く学習課題を子供たちと一緒に考える。子供たち自身が考える、ここを大事にすることで、自然と主体的・対話的で深い学びになっていくとおっしゃっていた。八柳指導主事の演習では自分で現在受け持っている授業の授業プランシートを書いた。このプランシートを基に2学期に2年生の公共の「日本の公共思想」の単元で授業を構想し実践してみた。この授業の構想では、学習課題を生徒たち自身に考えさせることとジグソー法を取り入れて展開することを試みた。

右が演習で書いた授業プランシートである。この授業のねらいは、日本の公共性はどのように息づいていて、それは何に由来するのかを探究・考察することである。

魅力的な学習課題の設定には、学習課題をつくるための社会的事象（資料）が大切で、資料は「事実」を提示するが、そこから子供たちに疑問や気づきが生まれ、「確かめたい!」という気持ちを引き出すものがよい。

今回は、東日本大震災の際の被災者の行動を提示した。災害の困難の中で、冷静で秩序正しい行動やお互いを思いやり助け合う行動が見られた。そこに日本社会の公共性が現れていると思い、日本人はなぜそのような行動ができるのか考えてみようと呼び

【演習】授業プランシート（簡略版）			
年月日(月)	立川市立学校	年 組	授業者名
年月日(月)	立川市立学校	年 組	授業者名
単元名	日本の公共思想	本 時	1
①想定しているまとの			
日本社会における公共性は、明治以降の西洋文化の影響からくる「道徳性」である。「公共性」「公共性」「公共性」など、公共性という概念が、西洋文化から来たものである。			
②まとめに書く学習活動（グループ）		まとめに書く資料等	
ジグソー法 A 「公共性」の定義について B 「公共性」の歴史について C 「公共性」の文化について D 「公共性」の未来について		資料集「日本の公共性」	
↓			
③まとめに書く学習活動（個）		まとめに書く資料等	
日本社会の公共性は、西洋文化から来たものである。		資料集「日本の公共性」	
↓			
④想定している学習課題			
なぜ日本には「公共性」があるのか、それはなぜか、公共性とは何か、公共性とは何か、公共性とは何か			
⑤学習課題の設定に基づく学習活動		課題設定に基づく資料等	
ロープレ 1つ入った経験から、公共性とは何か、公共性とは何か、公共性とは何か		資料集「日本の公共性」	

【演習】授業プランシート（簡略）

かけ学習課題を考えさせた。

2年A組では「日本の社会問題は何か」という学習課題が生徒から出された。教師のねらいとはずれたが、これはこれで面白い学習課題だと思った。2年B組では「災害時には人々はどのように手を取り合っていたか」「災害の時の対策はどのようなものがあったか」という学習課題が出された。考えてみれば、2年生の生徒は東日本大震災時は4、5歳だったのだ。当時の様子を詳しく知らなければ、まず当時の本当の様子、実際の様子に興味を持つのは当然だと思った。結局、生徒から出された学習課題と私から出した「日本人が災害時にも秩序正しく思いやりを持った行動ができるのはなぜか」という学習課題の二つについて考えることにした。この教師のねらい通りに行かない経験は、もっとしっかりした資料を用意すべきだったことや教師の問いかけが未熟で不十分だったことを反省させられた。そして生徒はこちらの働きかけに応じて正直に映し出す鏡のようだと感じた。ただそこに真実があり面白みがあると思った。

私から提示した学習課題を探究・考察するにあたり、日本人の行動に影響を与えている根底にあるものとして伝統的な考え方に注目した。考え方の習得・活用、学習課題の探究のためにジグソー法を取り入れた。

《ジグソー法の流れ》4つの班に分かれる

①エキスパート活動

A「ご先祖様が見守っている」（先祖崇拝）、B「お天道様が見ている」、C「お陰様で」、D「お互い様」という四つの考え方を各班で調べ説明できるようにした。

②ジグソー活動

4つの班を組み替え、A、B、C、Dのエキスパートが一人ずつ集まる班をつくり、班員にそれぞれのエキスパート活動で得た知識を説明し、班の全員がA、B、C、D全ての考え方を理解し合った。

③クロストーク活動Ⅰ

各ジグソーグループでA、B、C、Dの日本の伝統的な考え方を踏まえ、学習課題について話し合う。また、生徒から出された学習課題についても調べて意見を交換する。

④クロストーク活動Ⅱ

クラス全体で各班で話し合われた内容・意見を発表し合い、共有する。これにより多様な意見に触れ、理解を深めたり、知識の統合を行ったり、新たな知見を形成する。

公共授業プリント 探究編  
日本の公共思想

2011年3月11日東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした。その災害の困難の中で、被災者は冷静で秩序正しい互いを思いやり助け合う行動を見せた。その姿に世界の人々が驚き称賛し多くの支援と励ましを送ってくれた。

学習課題 を見つけよう



日本に伝統的に伝えられている考え方に注目してみよう

1つの考え方のエキスパートになろう。各考え方について調べて説明できるようになろう。

A「ご先祖様が見守っている」(先祖崇拝)

B「お天道様が見ている」

C「お陰様で」

D「お互い様」

ジグソー活動 A～Dのエキスパートが集まり班を作ります。班の人にそれぞれのエキスパートになったことを説明し合います。班の全員がA～Dの考え方について理解します。

A～Dの考え方を理解した上で、上の学習課題について考えてみよう。

自分の考えを書いてみよう

クロストーク活動 ジグソー活動をした班でそれぞれの考えを発表し合い意見交換してみよう。

新たな知見が生まれたら書いてみよう

クラス全体で意見の共有をしよう

他の班のよい意見、大事な意見、感心した意見、深い意見等書いてみよう

実際に使用した授業プリント

〈講義・演習を受け授業を实践してみて〉

八柳指導主事の講座で本日の講座で最も伝えたいことは、「1参加されている先生方を中心に、秋田県の地歴・公民科を更に、強化していきましょう！ 2自分が実践してみたいと思っている授業にチャレンジしましょう！」ということだった。小野寺指導主事も八柳指導主事もご自分で実践をされて有効なことを伝えてくださったので、たいへん説得力があり参考になった。また、学習指導要領の改訂で述べられている「主体的・対話的で深い学び」の意味内容についても詳しく具体的に教えていただいた。

演習自体が、自分で担当している授業のプランを立てることだったので、今までやったことのない手法を取り入れた授業を实践するきっかけを与えていただいた。その実践を通して生徒の中に真実があることを感じられたのでそれを引き出す授業をしてみたい。小野寺指導主事、八柳指導主事、受講者の先生方、授業に参加した生徒たちに感謝申し上げます。

## 「不登校や集団不適應の悩みを抱えた児童生徒の支援」

教諭 藤島知歩

### 【研修の目標】

不登校や集団不適應など生徒指導上の諸課題を抱える児童生徒について理解を深めるとともに、具体的な支援の在り方を学ぶことで、実践的な指導力の向上を図る。

【場 所】 秋田県総合教育センター

【期 日】 令和5年7月31日（月）

【日 程】 9：30～10：00 受付  
10：00～10：10 オリエンテーション  
10：10～14：30 〈講義・演習〉「気になる子」が溶け込む学級づくり  
名城大学教職センター 教授 曾山 和彦  
14：40～16：10 〈公開講演〉不登校の理解と支援  
名城大学教職センター 教授 曾山 和彦  
16：10～16：15 〈研修の振り返り〉

【受講者】 小・中学校、高等学校、特別支援学校の教諭等 計104名

### 【講座内容の概要等】

〈講義・演習〉「気になる子」が溶け込む学級づくり

- ・コロナによる「人との関わり制限」は特にダメージが大きく、児童生徒の無気力や不安の要因になっている。家庭と地域の力が落ちている。
  - ・子どもは大人から愛されれば愛されるほど、非行から離れるもの。愛＝褒める・叱るの両方。
  - ・育てたいことは同じでも、学年が違えば掛ける言葉も違ってくる。褒めるばかりではなく、段階に応じた声かけが必要である。
  - ・「気になる子」が溶け込む学級づくりの「王道」 ※最も正統な方法、という意
- 周りの子を育てたら、気になる子も一緒に育った。  
○周りの子たちの協力がなければ、「気になる子」の成長はなかった。

→ “ハンカチ” 理論

ハンカチのほつれた糸を持ち上げても、糸が切れハンカチは持ち上がらない。  
ハンカチ全体を持ち上げれば糸も上がる。（親野智可等）

- ・現代の子ども像を踏まえた「学級づくり3ステップ」
    - 自尊感情（ほどよく自分にO.Kと言えるか）&ソーシャルスキル（関わりの力。挨拶、頷く、「ありがとう」「ごめん」が言える等）が乏しい子どもたち
      - ↓ 「関わり」や「周りからの評価」を通して育つ
      - 学級の「気になる子」の存在がクローズアップ
      - 教室でできる特別支援教育の「王道」
        - Step1 「気になる子」の理解 … ユニバーサル（普遍的）な教育が可能となる
        - Step2 学級集団の理解
        - Step3 全ての子の自尊感情とソーシャルスキルの育成
      - 「ちびまるこちゃん学級」がインクルーシブ教育を推進する
  - ・ASDに対する「理にかなう」支援
    - 視覚情報の活用      ○一度に一つ      ○予定の伝達      ○肯定的表現
    - 文化に寄り添う
      - ◆感覚の過敏性 … （例）触覚、聴覚、視覚、嗅覚、味覚 等
      - ◆字義性（言葉のまま捉える。ジョークが通じにくい。）
        - （例）まっすぐ家に帰るのよ
        - 家に帰るにはあそこの角を曲がらなくちゃいけないのに…。
      - ※「文化に寄り添う」以外は、ユニバーサルな支援でもあり！
  - ・学級の「居場所」の2条件
    - 「ルール」と「ふれあい（リレーション）」      まずはルールの確立を！
  - ・ルールづくりは「2本のアンテナ」で！
    - ルール違反を見逃さないアンテナによる感知&対応
      - 対決 you メッセージ … （例）〈あなたが〉うるさい。静かに。
      - 対決 I メッセージ … （例）〈私が〉話がしにくくて困る。
      - 「?のといかけ」 … （例）「あれ？ルールは何だったかな？」
    - ルール遵守を見逃さないアンテナによる感知&対応
      - 肯定 you メッセージ … （例）〈あなたが〉自分から手伝いをしてえらいね
      - 肯定 I メッセージ … （例）〈私が〉嬉しい。助かる。ありがとう。
      - ※万能ではないので注意。
      - 認めるサイン提示 … （例）顔を見ながらOKサイン
- ※年齢、発達段階、障害特性への留意が必要！

- ・年齢、発達段階への配慮とは
  - 「注意・指示&褒め言葉」が効く・効かない境は？
    - 10歳 or 思春期（第二次性徴～身長伸び停止頃）
  - 「子どもは褒めて育てる」は大ウソ…?!
    - 「褒める」は上から下への「評価」
    - オトナになりつつある子どもの「境」と「落とし穴」がある。
    - “「大揺れの船（思春期）」から、子どもが海に投げ出されたとき、「泳いで行く」「浮き輪を投げる」など、助けられる大人”になって欲しい！
    - ↑ 知識・理論・技法を身に付ける
    - そのために… Iメッセージ&勇気付けが大事
    - ※勇気：誰もが人生の課題にぶつかった時、立ち上がれる「勇気」
  - 最強&最高&最幸の言葉は「ありがとう」
    - c f. アドラーの勇気を着ける3つの言葉…「ありがとう」「嬉しい」「助かった」
- ・ふれあいづくりは「縦糸」と「横糸」を織り上げる
  - 縦糸：教師と子どもを結ぶ糸
  - 横糸：子ども同士を結ぶ糸
- ・教師と子どもの「縦糸」を織るワザ
  - グローブ理論：全ての子どもに声かけという「ボール」を投げる
    - 気になる子への声かけに差が出る時には「学校全体で」という意識が大事
  - 子どもの「長所」や「好き・得意なこと」等を使い、**褒める・勇気づける・認める**
    - 関係作りの第一歩は相手への関心から
  - 穴のあいたコップ理論：「水」を注ぎ続ける。＝言葉をかけ続ける。
    - 子どもを諦めない、見捨てないという教師としての専門性
- ・子ども同士の「横糸」を織るワザ
  - 短時間&ゲーム感覚で楽しめるグループアプローチを活用する（学校全体で）
    - スリンプル（Slim&Simple）プログラム
    - 子どもは遊ぶがごとく。私たち（教師）は遊んでいない。
    - 長く続く理由は、「子どもにも教師にも負担が少ない」、「誰でもできる」、「ゆっくりだが確実に効果が現れる」等
    - スリンプルは「漢方薬」と「10年で文化になる」
- ・本研修のまとめ
  - 関わりが人を癒やす
  - 関わりが人を育てる

#### 〈公開講演〉不登校の理解と支援

- ・現代の子ども達は「人とのかかわり体験」が不足している。そのため、「自尊心」と「ソーシャルスキル」が不足する。この2つの不足が「学級不適合（不登校&いじめ）」「通常学級における気になる子」の問題に直結する。
  - 子ども達にかかわりの機会を様々用意するのが教師の役割。“人が人になるには、人が必要”

- ・不登校の基本的な考え方
  - 成長・発達課題 … 誰もが起こり得る
  - 成長・発達後、「結果として」登校
  - 一人一人に異なる対応
  - 特効薬はなく、日常の積み重ねがポイント
  - 学校・担任とのパイプが再登校の必要条件
  - 解決策を与えず、共に考える姿勢で
- ・不登校の理解
  - そうせざるを得ない      ○強い不安      ○娯楽に没頭〈不安を忘れたい〉
  - 一番安全な夜〈昼夜逆転〉      ○暴力にも理由〈愛情の確認〉
  - 嘘ではない言葉〈「約束」はせず、その時の言葉を受容する。「約束」を守れなかった時に自分を責める〉
    - ← これらの状況を理解して初めて「支援」が考えられる。
- ・個別カウンセリング基本5技法
  1. 受容      : 自己の価値観を交えず、相手の話を聴く
  2. 繰り返し : 相手の話の一部、あるいは全体を要約して繰り返す
  3. 支持      : 相手の行動や思考に肯定的な承認を与える
  4. 質問      : クローズ&オープンの2種類
  5. 明確化   : 相手の話から「察して」言語化していく
- ・不登校予防の視点
  - あたたかな人間関係づくり〈構成的エンカウンター〉
  - 社会性・欲求不満態勢の育成〈ソーシャルスキルトレーニング〉
  - 児童生徒本人だけでは克服できない環境除去〈スクールソーシャルワーカー等の外部機関との連携〉
- ・スリンプル (Slim&Simple) プログラムの提唱
  - 子どもたちは遊ぶがごとく。私たち(教師)は遊んでいない。
- ・「全校一枚岩」で意図的・意識的「働きかけ」を行わない限り、子どもの「かかわりの力」は育たない

## 【感想】

普段からどうしても「気になる子」に声をかけがちになってしまうが、学級集団として互いに認め合える学級づくりが必要なのだと改めて感じた。「ちびまる子ちゃん学級が理想だ」という曾山先生の言葉に、自分を含め、会場の誰もが納得していたように思う。また、「人が人になるには、人が必要」という言葉が印象に残った。様々な要因で人と人との関わりが薄くなったと言われる昨今だからこそ、やはり「学校」や「学級」という場での関わりを通して生徒に多くのことを伝え、社会で生き抜く力を育てていきたい。

## 「教育相談に生かすカウンセリングの技法」

教諭 土門 祐子

### 【研修の目標】

悩みや問題を抱えている児童生徒に適切に対応するために、学校において活用しやすいカウンセリングの技法について理解を深める。

【会 場】 総合教育センター

【期 日】 令和5年10月25日（水）

【日 程】 10:00～10:10 〈オリエンテーション・日程説明〉

10:10～16:05 〈講義・演習〉

教育相談を進める上での基本

—解決志向ブリーフセラピーを中心に—

秋田大学教育文化学部 教授 柴田 健 氏

16:05～16:15 〈研修の振り返り〉

### 【講座内容の概要等】

〈講義・演習〉 教育相談を進める上での基本—解決志向ブリーフセラピーを中心に

- ・面接における真実／面接における「なおエ」

どんなに立派な指導や助言をしても相手が聞き入れてくれなければ何の効果もない。

→ 1. 面接では常に肯定的な関係を作る。

2. 助言は最小限に止める。でもお土産（何かやってもらうこと、考えてもらうこと）は必ず渡す。

3. できるだけ1回の面接で終わらない。次回の約束をする。 の3つが大切である。

- ・面接の4つの力

観察力（ノンバーバルな特徴やその変化に注目）、傾聴力（相手の話をイメージしながら聞く）、反応力（自分の言動を意識しながら相手に合わせていく）、質問力（相手の関心に合わせた質問を展開する）

- ・来談者の枠組み（フレーム）を考える。

フレーム（枠組み）とは？

→ 「額縁」＝枠の中が展示作品。ということは額縁に囲い込まれる部分とそうでない部分を示している。

→ 来談者の言動はそのものを示すのではなく、何か他の意味を囲い込むものとして存在する。これが枠組み。話されることがあるということは必然的に排除されるものがある。セラピストはこの枠組みを考えながら言葉を発する必要がある。これらを繰り返すことにより治療的な対話が生まれる。

・基本的なフレームのバリエーション

期待フレーム1～3、問題フレーム、葛藤的なフレーム、解決フレーム、原因フレーム、変化の理論フレーム、大切な価値観フレーム。

セラピストのフレームは、いったん保留にして、自分の癖などを理解しながら、相手のフレームを大事にし、それに合わせていくことが大事。

・学校カウンセリングで大切なこと2つ

①問題を対人関係の中での出来事として理解する。問題を「個の問題」として、その人の「心理（こころ）」を考えると、自然に「心の問題」として過去や無意識の問題まで考えて「解釈」していく。これは精神分析などの心の内界を扱うカウンセリング。これでは教員やSCのできるものが少なくなる。「こころ」ばかりを見ては見落としが生じる。「こころ」よりも考えなければならないことがある。「家では暴れないが、学校で暴れる子どもは何が問題なのか?」「登校できない子どもはすべてこころの問題と考えて良いのか?」「(いじめの構造に対応せず) いじめられている子どものこころのケアだけをするのは正しいことなのか?」

→なんでもかんでも心の問題にしてしまうことはかえって危険である。問題を「対人関係の中で起こる出来事」として見ると、人と人との関係性「問題と人」との関係性、そこに存在するやりとりを見ることができる。そう考えると教員やSCのできるものが増える。考えなければならないことは「関係」。この「関係」の中には本人と保護者の関係、本人と「学校」の関係、保護者と「学校」の関係、本人と「問題」との関係、保護者と「問題」との関係、SCと学校の関係、SCと担任との関係など様々な関係が含まれている。

②問題解決より解決構築を重視する。問題モードと解決モードの違い。解決モードはうまくいっているところを増やし広げる。日常生活の中で問題として認識されるためには、問題が起きていない部分が必要。ソリューション（解決）・フォーカスト（志向）・ブリーフセラピーはクライアントの問題や悩みをなんとかしようとするのではなく、その人の持っている能力や、その人がこうなりたいと思う希望や願いに焦点をあてるブリーフセラピーの一つ。

・解決志向ブリーフセラピーが目指すこと

①クライアントと協働してクライアントの満足のいく未来のイメージを作ること。

②クライアントがこの未来のイメージを実現させるために必要な彼らの長所と力量について、臨床家とクライアントの両者が理解を深めること→クライアント各人の思考の枠組み（フレーム）に併せて対話を重ねることが最重要である。

・解決志向ブリーフセラピーの実践

クライアントの思考の枠組み（フレーム）を重視しながら次の3点について丁寧に対話する。

①【クライアントの考える問題】

クライアントは問題をどう捉えているか。どのように問題なのか。

②【クライアントの持つリソース】

クライアントはどんな解決に役立つものを持っているか。良い関係を築くためには、どのような話題を大事にするか。

③【クライアントの願う解決策】

問題が解決したときにはどうなっているのか。問題とは関係なく自分はどのようになりたいのか。夢は何か

- ・解決志向ブリーフセラピーの3つのルール（中心原理）
  - ①もし壊れていないのなら、直そうとするな！
  - ②うまく行くことが分かったなら、もっとそれをせよ！
  - ③もしもうまく行かないのなら、もう繰り返すな、何か違ったことをせよ！
- ・解決志向ブリーフセラピーの4つの基本的考え方
  - ①変化は絶えず起こっており、必然である。
  - ②小さな変化は、大きな変化を生み出す。
  - ③「解決」について知るほうが、問題と原因を把握することよりも有用である。
  - ④クライアントは、彼らの問題解決のためのリソース（資源・資質）を持っている。クライアントこそが、（彼らの）解決のエキスパート（専門家）である。

## 【感想】

日々悩みや問題を抱える生徒と対峙する中、この研修で学んだ解決志向ブリーフセラピーを実践してみて、生徒の持っている良いところを認めて褒めていく姿勢はやはりとても効果的だと感じた。過去よりも未来に焦点を当て、否定的な面よりも肯定的な、解決している、うまくいっている側面に焦点を当てる手法は前向きでポジティブな印象を受けるし、セラピーを行っている教員もクライアントの生徒も明るい気分になることができると感じる。問題を抱える生徒を目の前にすると、ついできていない面に注目してしまいがちだが、この解決志向ブリーフセラピーの手法を忘れずに、生徒が前向きに、自分の人生に希望をもって歩いていけるように「ほめる」を大切にしていきたい。

## 国語科「古典B」学習指導案

実施日時 令和5年10月27日(金) 4校時 3年A組総合コース21名(男子6名、女子15名)  
 使用教科書 精選古典B 新版(東京書籍)  
 授業者 藤島 知歩

- 1 単元名 様々な視点で魅力を見いだそう
- 2 教材名 5 随筆2 『徒然草 花は盛りに』
- 3 単元の目標
  - (1) 作品を読み、筆者のものの見方を踏まえた上で鹿角の自然や文化の魅力について調べ、理解を深める。(関心・意欲・態度)
  - (2) 筆者のものの見方や感じ方について学習し、自分の言葉で表現する。(読む能力)
  - (3) 文法事項を理解し、適切に現代語訳をする。(知識・理解)
- 4 単元と生徒 全体的に穏やかな雰囲気、学ぶ意欲が高い生徒が多い。しかし、古典作品に対しては当時の時代背景や文化を知らないが故に、理解が深まらない生徒もいる。そこで、今回は作品を通して筆者のものの見方や感じ方について学習することで自分の見解を述べるとともに、自分達が住む鹿角の魅力について見直し、考えさせる契機としたい。そして、古典作品や地元鹿角をより身近なものとして感じさせたい。
- 5 指導と評価の計画
  1. 筆者や作品について理解を深める。 1時間
  2. 文法事項を踏まえ、本文を現代語訳する。 1時間
  3. 筆者のものの見方や自然観について整理し、自分の考えを述べる。 1時間(本時1/1)
  4. 筆者の考え方を踏まえ、鹿角の魅力をGoogle スライドにまとめ、発表する。 2時間

### 6 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 読む能力	C 知識・理解
作品を読み、筆者のものの見方を踏まえた上で鹿角の自然や文化の魅力について調べ、理解を深めようとしている。	筆者のものの見方や感じ方について学習し、自分の言葉で表現しようとしている。	文法事項を理解し、適切に現代語訳をする知識を身に付けている。

### 7 本時の計画(本時 3/5)

- (1) 目標 筆者のものの見方や自然観について、自分の考えを具体的に述べることができる。(読む能力)
- (2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	本時の流れを確認		
展開 40分	本時の目標 筆者のものの見方や自然観について整理し、自分の考えを具体的に述べるができる。  現代語訳を元に、ワークシートの項目に沿って筆者の見方と、「かたくななる人」「片田舎の人」等の見方を比較しながら整理する。 (個人10分 →グループで確認5分)	ワークシートを活用し、筆者のものの見方を簡潔にまとめさせる。	

	<p>筆者のものの見方を「一言」で表現する。 (グループ 7分)</p> <p>筆者のものの見方について、自分の考えを表す。 (個人 10分)</p> <p>グループ内で発表する。(8分)</p>	<p>ワークシートでまとめたことを、簡潔な言葉でまとめることができるよう、助言する。</p> <p>具体的に根拠や理由等を述べられるよう、助言する。</p> <p>相手にわかりやすく話すための声量や速さ等を工夫させる。</p>	<p>本文の内容を踏まえた上で、適切な言葉で表現できている。[B] 【ワークシート】</p> <p>筆者の考えに対し、具体的に自分の考えを表現できている。[B] 【ワークシート】</p>
まとめ 5分	振り返りシートに記入する。	最後に、次回の授業について連絡する。	

## 公民科「公共」学習指導案

実施日時 令和6年2月5日(月) 5校時 2年A組16名(男子6名、女子10名)  
 使用教科書 高等学校 公共(教育図書)  
 授業者 岩澤 利哉

- 1 単元名 第3章「持続可能な社会へ」 2 地域社会と共に学ぶ
- 2 単元の目標 公共の学びが知識の習得、思考力や表現力の獲得にとどまらず、主体として社会に参画する場までつなげていくことを目指す。
- 3 単元と生徒 静かに授業に取り組む集団である。今やるべきことに集中していないときもあるが、グループ活動やその後の発表などは自分たちの考えを示すことができる。
- 4 評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
他校の実践例を参考にして社会課題の調査、表現方法、課題解決に向けた協働の方法などについて学習することができる。	公共で学習した内容や課題を基に見方・考え方を働かせ、具体的な社会課題を見だし、主体的に取り組み表現することができる。	公共他校の事例に刺激を受け、社会参画への意欲を持ち、様々なところをつなぎ、協働、交流する中で自分たちで考え行動することができる。

- 5 本時の計画 題材名 「鹿角に暮らした縄文人の暮らしから学ぶ」
  - (1) 目標
    - ①鹿角にある国特別史跡大湯環状列石を造った縄文人の暮らしについて各班の発表から理解する。
    - ②縄文人の生き方をヒントに持続可能な社会について対話し考える。
  - (2)学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	○1万年以上続いたと考えられる縄文時代についてどんな暮らしでなぜそんなに続いたのか各班で調べたことを発表することを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">学習課題:鹿角に暮らした縄文人の生活について調べたことを発表する。</div>		
展開 40分  発表 20分	○1班 大湯環状列石について 自然と祖先を敬う ○2班 縄文土器について 自然の恵みに感謝し循環する生活 ○3班 竪穴式住居について 囲炉裏を囲む円と柱構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを分かりやすく伝えるように促す。</li> <li>・疑問点は積極的に質問するように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きやすく工夫することができる。[B]</li> <li>・しっかり聴くことができる。[A]</li> </ul>
対話 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動:発表を聞いて感じたことを話し合い、持続可能な社会を考える。</div> ○輪になって座り、トーキングスティックを使って感想を聞き、その都度、発言したいことがあれば対話する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言者の話を聞くことを守らせ、自由に発言できる雰囲気を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の視点を表現することで集団の学びに寄与することができる。[B]</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話の中で出た意見や持続可能な社会の実現について整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文人の生き様から生徒が何をくみ取るか大切に扱いたい。</li> </ul>	

## 数学科「数学Ⅰ」学習指導案

実施日時 令和6年3月4日(月) 1校時 1年AB組 33名(男子19名、女子14名)

使用教科書 新編 数学Ⅰ(数研出版)

授業者 奥山和貴、佐々木大輔

- 1 単元名 第5章「データの分析」 5 2つの変量の間関係
- 2 単元の目標 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにする。
- 3 単元と生徒 数学を身近なものに感じることができない生徒も多いことから、生徒にとって身近な題材である鹿角市の統計データを用いることで、生徒に興味・関心を持たせたい。また、鹿角市のオープンデータに触れることで、総合的な探究の時間などでの活用につなげたい。

### 4 評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
散布図及び相関係数などの意味を理解し、散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。	散布図及び相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。	散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それを事象の考察に活用しようとしている。

### 5 本時の計画

(1) 目 標 散布図を作成し、データの相関関係を読み取ることができる。

(2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 10分	<b>学習課題</b> データ(*)から、複数のデータの相関関係の有無について予想し見通しを持つ。	・2つのデータの関連性を調べるために「散布図」が活用できることを生徒から引き出す。 ・配付したデータを黒板に掲示し、本時の流れを説明する。	
データ(*)：平成20年から令和3年の「農業産出額の推移」(鹿角市オープンデータより)			
展開 35分	<b>【個人活動】</b> ①データ(*)から、スプレッドシートを作成する。 ②散布図を作成する。 ③作成した散布図について、自分の考えをまとめる。  <b>【協働活動】</b> ④他の生徒と作成した散布図に対する考えを共有する	・スプレッドシートの操作の仕方を確認する。 ・タイトルや軸の名前をつけることで散布図を見やすくする。  ・他の生徒の意見や感想から、新たな視点や気づきがないかを考えさせる。	・散布図を作成することができる。[A]  ・授業で学習した用語を用いて意見を述べることができる。[B]
整理 5分	<b>【個人活動】</b> ⑤鹿角市の農業産出額について文章でまとめる。	・自身や他の生徒の意見を踏まえて、文章化させる。	

# 理科「生物基礎」学習指導案

実施日時 令和6年2月14日(水) 7校時 1年AB組 生徒33名(男子18名、女子15名)  
 使用教科書 高等学校新編生物基礎(数研出版)  
 授業者 櫻庭 洋

1 単元名 第4章 生物の多様性と生態系 第4節 生態系のバランスと保全  
 2 人間生活と生態系

2 単元の目標 生態系のバランスが保たれているとはどういうことか理解することができる。また、人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解することができる。

3 単元と生徒 単元は生態系のバランスや在来種、特定外来生物などを扱う内容であり、身近に雄大な自然のある本校の生徒にとっては非常に関心の高い学習内容である。

クラスは全体的に明るい生徒が多く、発言や黒板での解答をさせると自発的に挙手したり発現したりできる者が複数いる。学習に向かう姿勢は全体的に良いものの、集中力が長続きせず、学習に向かう姿勢が乱れる生徒も見られる。

4 指導と評価の計画

- 1 生態系のバランス 1時間
- 2 人間生活と生態系 2時間(本時2/2)
- 3 生態系の保全 1時間

5 単元の評価基準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを説明することができる。	外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、問いに答えることができる。	生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組みせ、ノートにまとめることができる。

6 本時の計画

(1) 目標 鹿角市や秋田県に見られる外来種について調べ、在来種に対する影響についてグループごとに発表することができる。

(2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	<p>【本時の学習内容の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の進め方について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の段取りを簡潔に説明し、発表シートの作成に時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話聞くことができる。[C]</li> </ul>
展開 40分	<p>本時の目標「鹿角市や秋田県に見られる外来種について調べ、在来種に対する影響についてグループごとに発表することができる。」</p> <p>【グループ毎の学び合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット、教科書、資料集等を利用して鹿角地域や秋田県に侵入してきている外来種について調査する。また、外来種の侵入による在来種への影響についても調査する。</li> <li>・調査結果についてグループ内で情報共有する。</li> <li>・Jamboardを活用してフレーム1枚にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ生徒が自分たちの力でデータを集め、学び合いを進められるように解答を誘導しすぎない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に調べ学習に取り組むことができる。[C]</li> </ul>

	<p>【クラス全体での学び合い】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Jamboard上でまとめたフレームを電子黒板に表示して他のグループに発表する。</li> <li>・発表した内容について質疑を行い、さらに理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分の言葉で説明するように配慮する。</li> <li>・質疑において、回答を文章で答えるよう配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい言葉で説明することができる。[B]</li> </ul>
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容の振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表したグループの内容を簡潔にまとめ、必要に応じて内容を補足する。</li> </ul>	

## 保健体育科「保健」学習指導案

実施日時 令和5年7月20日(木) 1校時 1年A組 17名(男子9名、女子7名)  
 使用教科書 最新高等学校保健体育(第一学習社)  
 授業者 中嶋 豊

- 1 単元名 現代社会と健康(食事と健康)
- 2 単元の目標 自分たちの体は普段の食事から作られているため、生命の維持や健康のための食習慣の大切さや偏った食習慣やダイエットがもたらす健康影響などを食育の観点からも関連づけて理解できるようにする。
- 3 単元と生徒 発問に対して自分の考えを持っている生徒が多く、積極的に意見する生徒が多い。本時では、栄養素や食育の観点から自身の食習慣を振り返ることで健康的な食生活を理解し、自己の健康の保持増進につなげることができるようにしたい。

### 4 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割についての理解を深めることができる。	生活習慣病とのかかわりも踏まえながら、健康的な生活習慣としての「食事」のあり方を考えることができる。	食習慣の重要性を理解し、食べることの意義や食育の観点とも関連づけながら考えることができる。

### 5 本時の計画

- (1) 題材名 食事と健康
- (2) 本時の目標 食事の意義や正しい食習慣を自分自身の食生活と比較しながら課題を説明できる。
- (3) 学習の過程 評価の観点・・・A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・食事への意識や意義について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の食事で心掛けていることや食事の意義を考えさせる。</li> </ul>	
<b>本時の目標「食事の意義や正しい食習慣を自身の食生活と関連づけながら課題を説明できる」</b>			
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5大栄養素について</li> <li>・現代社会における食習慣の課題について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5大栄養素や様々な食品に含まれる栄養素やその働きについて説明する。</li> <li>・朝食の欠食や栄養バランスの偏りなど、現代社会における食生活の課題について説明する。</li> </ul>	
<b>発問「自身自身の食事内容を振り返り、課題をみつけよう」</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の食事内容を振り返る</li> <li>・正しい食習慣と食育について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前日からの食事内容についてワークシートに記入させる。記入後はペアの生徒を栄養士役に見立てて改善点を記入させ、自身の食事の課題を確認させる。(グループ・発表)</li> <li>・食習慣の大切さや食育の問題や取り組みについて説明し、自身の食習慣と関連付けて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスを踏まえ、根拠を持って考えることができる。[B][C]</li> <li>【観察・発表】</li> <li>・改善点から考えを深めることができる[B][C]</li> <li>【観察・発表】</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容をまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康的な食生活を送るための課題について、本時の内容を元に根拠をもって自分の言葉にまとめさせる。(発表)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの食習慣の課題や改善点について考えることができる。[B]</li> <li>【発表・ワークシート】</li> </ul>

## 芸術科 「美術 I」 学習指導案

実施日時 令和5年6月8日(木) 6校時 1年A組 8名(男子6名、女子2名)  
 使用教科書 美術1(光村図書)  
 授業者 田島 智香子

- 1 単元名 本校創立80周年のロゴマークをデザインしよう (A表現 (2) デザイン)
- 2 単元の目標
  - ①造形の要素の働きを理解して、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表す。【知・技】
  - ②ロゴマークの目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成している。【思・判・表】
  - ③主体的にロゴマークの表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。【態】
- 3 単元と生徒 男子6名、女子2名の選択クラスである。発想・構想することを厭わず、意欲的に制作できるが、ロゴマークの意味や働きについて理解している生徒は少ない。十和田高校の80周年記念のロゴマークは決定した後ではあるが、デザインについて学ぶよい機会と捉え設定した。

### 4 指導と評価の計画

導入(1時間、本時1/1)、構想(2時間)、制作(6時間)、相互鑑賞会とまとめ(1時間)

### 5 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
造形の要素の働きを理解して、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。	ロゴマークの目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。	主体的にロゴマークの表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

### 6 本時の計画

(1) 目標 ロゴマークの目的や役割と、造形要素との関連について探る。

(2) 学習の過程

	学 習 活 動	指導上の留意点 [用意する資料など]	評価基準【方法】
導入 2分	・題材と本時の目標や流れを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <b>【目標】 ロゴマークの表現の工夫を探ろう。</b> </div>	・授業の見通しがもてるよう、目標と授業の流れを明示する。	
展開① 15分	<b>〈練習制作〉</b> 1. 提示されたテーマに合うロゴマークを考え、スケッチで表す。 2. 考えたロゴマークを全員で鑑賞する。	・テーマはバリエーションが出やすいものを設定する。 ・悩みすぎて手が止まらないように、練習であることを強調する。[ワークシート] [付箋] ・アイデアスケッチを投影し、比較しやすくする。 ・鑑賞が深まりすぎないように、制作意図を聞く程度に留める。	

<p>展開② 25分</p>	<p>〈ロゴマークの鑑賞〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実存するロゴマークを鑑賞し、造形要素を挙げる。</li> <li>2. 造形要素から連想されることやものを付箋に書いて貼る。</li> <li>3. 連想したイメージを共有する。</li> <li>4. わかったことをワークシートに記入する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに注目して鑑賞すればよいのかがわかるように、造形要素ごとにフレームを分ける。 [Jamboard]</li> <li>・自分が挙げた〈造形要素〉にこだわらなくてもよいことを呼びかける。</li> <li>・付箋を整理する。</li> <li>・企業の制作意図を紹介し、イメージと合致している点を示す。</li> <li>・簡潔にまとめられる形式にする。 [ワークシート]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素やイメージをJamboardに挙げるができる。[A]</li> <li>・ワークシートにまとめを記入することができる。[A]</li> </ul>
<p>まとめ 8分</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返りシートを記入し、発表する。</li> <li>2. 次時の学習内容を確認する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを記入して、提出するように指示する。 [振り返りシート]</li> <li>・実際に制作するのは企業ロゴではなく、イベントのロゴマークであることを確認する。</li> </ul>	

## 外国語（英語）「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時 令和5年9月15日(金) 5校時 3年A組総合コース21名(男子6名、女子15名)  
 使用教科書 Grove English Communication II (文英堂)  
 授業者 土門 祐子

- 1 単元名 Lesson 6 Iceland
- 2 単元の目標 アイスランドの自然の中で工夫しながら生活している人々の様子を知り、日本や地元鹿角市の生活様式との相違点を見つけながら読む。
- 3 単元と生徒 アイスランドの地域的環境や人々の生活様式を通して、ALTとの授業も活用しながら、異なる文化への理解を深める。また、寒い気候や温泉など、鹿角地域と共通点が多いことに気づかせ、その気づきをもとに地元地域の魅力について調べ、まとめ、発表する機会を設定する  
 生徒については、授業に対する姿勢はとても良好で、前向きに英語学習に取り組んでいる。内容読解だけでなく音読や発音練習、文法演習などにも意欲的に取り組むことができる。
- 4 指導と評価の計画  
 導入(1時間) 内容理解、文法演習(8時間) 調査、まとめ(1時間) 発表、まとめ(1時間:本時)
- 5 評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して作業することができる。</li> <li>・調べた内容を分かりやすく伝えようと工夫することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中に出てきた倍数や分数を使って、鹿角地域にある事物について書いたり話したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いて内容を箇条書きでまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスランドの地域特性と生活様式を理解することができる。</li> </ul>

### 5 本時の計画

(1) 目標 各班がまとめた鹿角市の魅力やアイスランドとの相違点についての発表を聞いて、それぞれ発表内容を箇条書きでまとめることができる。

#### (2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班に分かれて原稿を読みあい、発音や内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班を回って、発音に不安なところがないか声をかける。</li> <li>・できるだけ原稿を見ないで話せるようになっていないか確認する。</li> </ul>	
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を提示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">鹿角市の魅力やアイスランドとの相違点についてまとめよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1番目のグループの生徒たちがそれぞれ他のグループを担当し、自分たちの調査内容を発表する。聞いている生徒は内容を箇条書きでワークシートにまとめる。</li> <li>・以下同様に全てのグループが順番に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要があれば、声の大きさや速度などアドバイスする。</li> <li>・ワークシートのまとめ方に不足があれば助言を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の発表内容を適切にまとめることができる。【C】</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【共働作業観察、シート点検】</b></p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートにまとめた内容を黒板に書かせて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを提出するよう指示する。</li> </ul>	

## 家庭科「家庭基礎」学習指導案

実施日時 令和5年8月31日(木) 4校時 1年AB組 生徒33名(男子18名、女子15名)  
 使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)  
 授業者 能島 直美  
 場所 調理室

- 1 単元名 鹿角の茜染の絞り作業
- 2 単元の目標 1300年の歴史を持つ鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法を学び、実際に茜染を体験することで地域の伝統文化への理解を深める。
- 3 単元と生徒 実習を行うことを好み、意欲的に作業をすることができる。家庭課題研究は、様々な分野の学習を行うことができ、興味・関心を高めて授業に臨む生徒が多い。

### 4 指導と評価の計画(4時間)

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 1 鹿角紫根染・茜染の歴史等の学習 | 1時間        |
| 2 鹿角茜染の絞り作業       | 1時間(本時2/4) |
| 3 茜染体験            | 2時間        |

### 5 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
鹿角の紫根染・茜染の歴史を知り、製作方法を体験することで、改めて郷土について理解を深めることができる。鹿角絞りの作業や茜染を体験することで、先人の努力や技を習得することができる。	鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法についての講話や体験から、深く考え、表現することができる。	鹿角の紫根染・茜染の歴史や製作方法に興味を持ち、講話や体験をふまえることで、郷土への関心を高めることができる。

### 6 本時の計画

- (1) 目標 鹿角茜染の古代絞りの種類を理解し、好みの絞り模様を描き、絞り作業を体験し、地域の伝統文化への理解を深める。

#### (2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の確認をする。</li> <li>・本時の目標を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した歴史等を確認する。</li> <li>・本時の作業工程、留意事項を説明する。</li> </ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿角の古代染3種類の特徴と絞り方を確認する。</li> <li>・絞り模様にあわせて手順を確認し、絞り作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者が多い絞りから説明をし、説明を聞いた生徒から絞り模様を描く。</li> <li>順序:小柘絞り→大柘絞り→立柘絞り</li> <li>・絞り模様ごとに鹿角紫根染・茜染研究会の方に指導をしていただく。</li> <li>・机間巡視を行い、個々にアドバイスをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に絞り模様を描くことができる。[C]</li> <li>・絞りの手順を理解し、丁寧に絞り作業ができる。[A]</li> <li>・絞りの特徴を理解し、郷土の文化への理解を深めることができる。[A]</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用したものを片付ける。</li> <li>・振り返りシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した布は名前を書いた袋に入れ、片付ける場所を指示する。</li> <li>・記入した感想用紙を回収し、次回はこの布を茜染することを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容や作業を振り返り、感想等をまとめることができる。[B]</li> </ul>

## 商業科「ビジネス基礎」学習指導案

実施日時 3月4日(月) 4校時 2年B選択群 生徒16名(男子6名 女子10名)

使用教科書 ビジネス基礎(実教出版)

授業者 長崎純一

- 1 単元名 第3章 経済と流通の基礎 第2節 経済活動と流通  
5 情報の進化
- 2 単元の目標 今日のように流通の情報化が進展する中で、今後の望ましい流通について理解することができる。また、消費者のデータを活用した様々な取り組みについて理解することができる。
- 3 単元と生徒 近年、大手スーパーやコンビニエンスストアなどでは、POSシステムや電子マネーからのデータを活用したPB(プライベートブランド)商品が開発されている。なぜPB商品を開発するのか、消費者ニーズの変化によってどのようなPB商品が開発されているのかを具体例を取り上げながら理解させる。  
クラスは、自分の意見を積極的に発言できる生徒と発言は控えめだが、じっくりと考えることができる生徒がいる。授業に向かう姿勢は良好で、良い雰囲気です。

#### 4 指導と評価の計画

##### 第3章 経済と流通の基礎

- 1 経済の仕組みとビジネス 3時間
- 2 経済活動と流通 5時間(本時4/5時間)

#### 5 単元の評価基準

A 知識・技術	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
PBとNBの違いを説明することができる。	消費者ニーズに関するデータをどのようにPBの開発に役立てているのかを考察し、説明することができる。	消費者ニーズからどのようなPB商品を開発すべきか、主体的に考察し、ノートにまとめることができる。

#### 6 本時の計画

(1) ねらい PBを開発するメリットとなぜPB商品は価格が安いのかを理解させるとともに、多様な消費者ニーズに対してどのようなPB商品を開発すべきかを考察させる。

(2) 学習過程(※PB→プライベートブランド NB→ナショナルブランド)

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>•PBとNBの違いを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•PB商品とNB商品との価格の違いを説明する。</li> </ul>	
	<b>本時の目標：どんなPB商品を開発しますか？</b>		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>•PB商品とNB商品の価格の違いを調べる。(スプレッドシートへ入力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•実際にどれくらいの価格の差があるのか具体例を提示する。</li> </ul>	
	<b>発問1：なぜPB商品は価格が安い？</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>•価格が安い理由を考える。(スプレッドシートへ入力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•AIテキストマイニングから情報を分析する。</li> <li>•ある企業の取り組みを紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•PB商品の価格が安い理由を考察することができる。[B]</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストを削減するための具体的な方策を考える。 (スプレッドシートへ入力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NB商品よりも価格が高いPB商品を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コストを削減するための方策を考えることができる。[B]</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>発問2：なぜPB商品は価格が高い？</b> </div>		
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者のニーズやターゲットに合わせた商品開発をする必要があることを確認する。</li> </ul>	

## 編集後記

今年度は「生徒が主体的に活動し、学んだことや得たことを活用して自分の思いや意見を伝え合えるような、達成感のある分かりやすい授業づくりの推進」を課題として設定した。その課題を解決できるよう、効果的な指示や思考が深められるような発問等の工夫、教科の特性に応じた有効なICT活用に努めてきた。

また、10年目となったふるさと教育「かづの学」では郷土に対する理解を深め、それを生徒自身の工夫を生かして発言したり表現したりする公開発表会も実施された。

今年度で本校はその歴史に幕を下ろす。本校の教育活動の集大成となるこの研修集録が、皆様の今後の教育活動に御活用いただければ幸いである。

今回の研修集録作成にあたり、原稿依頼を引き受けてくださった先生方に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

### 令和5年度 研修集録 第31号

発行日 令和6年3月28日  
発行 秋田県立十和田高等学校  
電話 0186-35-2062  
FAX 0186-35-2272